



社会福祉法人 日本コイノニア福祉会
中宮まぶね保育園
〒573-0011 枚方市中宮山戸町15-1
TEL072-840-2780 FAX072-840-3212
E-mail nakamiya-encho@koinonia.or.jp
URL <http://www.koinonia.or.jp/nakamiya/>

発行日2025年10月31日

《法人の理念》
本法人の理念「隣人愛」の精神に基づいて福祉サービスを必要とするすべての人に仕え日常を支援し、常に人々の人権を護りその人の尊厳を尊重します

《保育園がめざす子ども像》

- ◆ 自分で考え意欲を持って行動する子ども
- ◆ 相手を思いやることのできる子ども
- ◆ 豊かな感性を持ち、力いっぱい表現する子ども

★もしも園に不審者が侵入したら...★

「
...と、館内放送が入ったら、園内に
不審者が侵入してきた合図です。
保護者の方もこの合言葉を聞いた
らお子様と自分の身を守る行動をと
ってください

日が暮れるのが一段と早くなり、なんだか少し切ないような気持ちになる今日この頃です。10月中旬まで暑い日が続いていたのに、急に寒くなり、体調をくずしてしまうお子様も多く、毎日心配しています…。

いよいよ11月2日(日曜日)は、第11回運動会！

保育園みんなの元気な顔が揃う事を、心から祈っています…。

運動会という大きな行事に、子ども達は先生と一緒に一生懸命取り組んでいます。

10月中旬頃から涼しくなって、やっと園庭での練習ができるようになりました。

先日の予行では、おじいちゃんおばあちゃんに見に来てもらい、とても楽しく張りきっていました。今は本番で、大好きな保護者の方に見てもらえる事を励みに、頑張っています。練習の中で、自分1人が頑張るだけではなく、クラスのみんなで力を合わせる楽しさもたくさん経験します。仲間と協力することの達成感を身体と心でいっぱい味わい、いろんな事を学んでくれたらいいなあと思います。

また、周りの人達に「頑張ってたね！すごいね！」って褒めてもらい認めてもらう事で、子ども達は自信をつけ、子ども達の自己肯定感が育っていくのです。当日の結果だけで判断するのではなく、それまで頑張ってきた過程を大切に、お家に帰っていっぱい褒めてあげて下さいね！

運動会が終わると「保育参加」「おもいほり」「秋の遠足」「ごんぼ汁」など、

子ども達にとって楽しい事がたくさん待っています！

体調に気をつけながら、元気いっぱい楽しんでいきたいと思います。

今月もどうぞよろしくお願い致します。

園長 山本真理子



毎朝、検温をお願いします！

子どもたちは自分で自分の体調をきちんと伝えることができません。
必ず、毎朝検温をして、子どもたちの健康管理をお願いします。
乳児クラスはバインダーに、
幼児クラスはスタンプ帳に必ず体温の記入をお願いします。

11 2025
November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	27	28	29	30	31	1
2 ★第11回 運動会	3 運動会予備日	4 運動会予予備日	5 ふれあい (地域子育て支援) 880万人訓練	6 リトミック教室 (4・5歳) 職業体験(桜丘中)	7 いもほり 高齢者施設訪問 →(5歳児)	8
9	10 体育あそび教室	11 幼児秋の遠足 (ポーンランド)	12 太鼓教室	13	14 布団乾燥	15
16	17 体育あそび教室	18 英語あそび教室	19 命のはなし (4・5歳児) 保育参加	20 リトミック教室 (2・3歳)	21 ごんぼ汁	22
23 30	24	25 総合避難訓練	26 誕生会 太鼓教室	27 びよびよ (地域子育て支援) 職業インタビュー (中宮中)	28 布団乾燥	29

今月の聖書の言葉 11月号 園だより
「神は愛です」(ヨハネの手紙一4章16節)

長かった酷暑が過ぎて、ようやく秋になったと思ったら、今度は急に寒さがやって来たようです。日はすっかり短くなり、お迎えの時間には暗くなっていることも増えてきました。ですが、子どもたちは思い切り遊べることを喜んで、この季節を過ごしています。

3歳くらいの子どものために「神さまって見たことある？」と聞くと、得意気に「あるで」と答えてくれる子どもがいます。大人には見えなくても子どもの目には見えているのかもしれませんが。日本語では「カミ」を「隠れ身(目に見えないもの)」として理解していますが、それは聖書も同じで「いまだかつて神を見た者はいません」と書かれています。しかし、同時に「私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちの内にとどまり、神の愛が私たちの内に全うされているのです」とも言書かれています。なぜなら「神は愛」だからです。

「愛」とは「人を大切にする」ということです。具体的には、時間や物や心など、自分の持っている「よいもの」を相手のために使うということです。そしてそのようなことができるのは、私たち自身が先に「してもらって嬉しかった」という体験を持っているからです。そのような愛の働きを教えてくれた方々の中に、他でもない神様がいらっしゃるのだと思います。私たちが今を生きる子どもたちを日々大切にすることを通して、子どもたちもまた、周りの人々を大切にすることができるようになっていくのだと思います。

(チャプレン 牛田匡)